

APPARATUS FOR RUBBING DIRT OFF TONGUE

Patent number: JP2001061849

Publication date: 2001-03-13

Inventor: AIZAWA KUNIHISA

Applicant: AIZAWA KUNIHISA

Classification:

- international: A61B17/24; A61B17/24; (IPC1-7): A61B17/24

- european:

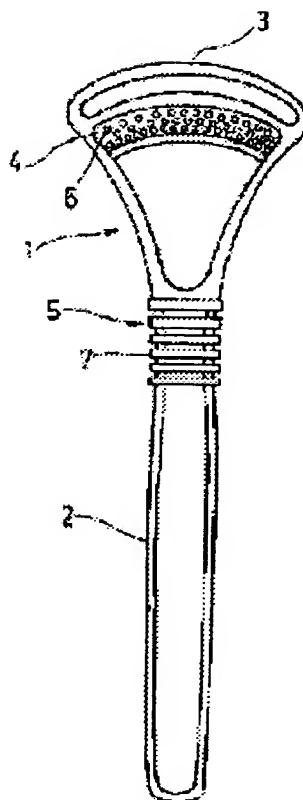
Application number: JP19990244813 19990831

Priority number(s): JP19990244813 19990831

[View INPADOC patent family](#)

Abstract of JP2001061849

PROBLEM TO BE SOLVED: To safely and easily remove dirt on a lingual surface by forming a rubbing piece and a bristled part into fan-shaped arcuate parts best-suited to the shape of the tongue. **SOLUTION:** This apparatus for rubbing dirt off a lingual surface comprises a grip 2, a neck 5 and a head. The neck 5 has a flexible part 7 and the head is approximately fan-shaped and formed with a sharp rubbing piece 3 at its end and a bristled part 4 thereinside. According to the above arrangement, the rubbing piece and the bristled part are formed into fan-shaped arcuate parts best-suited to the shape of the tongue, whereby dirt on a lingual surface can be safely and easily removed.



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-61849

(P2001-61849A)

(43)公開日 平成13年3月13日 (2001.3.13)

(51)IntCl.⁷

A 61 B 17/24
A 61 C 17/00

識別記号

F I

テ-マコ-ト⁸ (参考)

A 61 B 17/24
A 61 C 17/00

4 C 0 6 0

T

審査請求 未請求 請求項の数1 O.L (全3頁)

(21)出願番号 特願平11-244813

(22)出願日 平成11年8月31日 (1999.8.31)

(71)出願人 595002214

逢澤 邦久

神奈川県川崎市高津区下作延375番地

(72)発明者 逢澤 邦久

神奈川県川崎市高津区下作延375

(74)代理人 100092107

弁理士 下田 達也

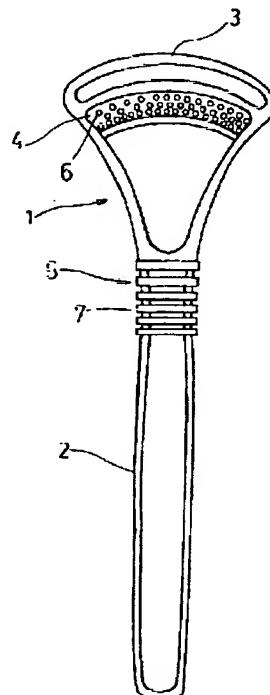
Fターム(参考) 40060 MM03 MM24

(54)【発明の名称】 舌垢の擦り取り具

(57)【要約】

【構成】 把持部2と首部5と頭部からなる舌面の舌垢を擦り取るための舌垢の擦り取り具で、首部5は可撓部7を有し、頭部は略扇形状で先端に銳利な擦り取り片3とその内側に植毛部4を形成した舌垢の擦り取り具。

【効果】 本発明は、以上の構成に基づいて、舌の形状に最適な扇状の円弧部に擦り取り片と植毛部を形成することで安全に簡単に舌面の垢を除去することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 把持部と首部と頭部からなる舌面の舌垢を擦り取るための舌垢の擦り取り具で、首部は可撓部を有し、頭部は略扇形状で先端に鋭利な擦り取り片とその内側に植毛部を形成したことを特徴とする舌垢の擦り取り具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、舌面の舌垢を擦り取るための舌垢の擦り取り具に関し、奥から手前側に引き出しながら舌面を擦ることにより舌垢を取り除く舌垢の擦り取り具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来は、歯ブラシを使用して舌面の舌垢を擦り取るか、歯を舌面に接触させて舌を動かして舌垢を擦りとることを行っている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、従来技術の歯ブラシで擦り取るには、歯をブラッシングするのに都合の良い形状をしているので、舌の垢取りには不便であるという問題があった。また、歯を舌面に接触させて舌を移動させて垢を取り除くには舌面全面を対象にすることが難しく、特に舌の奥部は垢を取り除くことはできないという問題があった。

【0004】本発明は、この事情に鑑み、簡単な構成で、頭部は略扇形状で先端に鋭利な擦り取り片とその内側に植毛部を形成した舌垢の擦り取り具を提供することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、前記課題を解決するために、把持部と首部と頭部からなる舌面の舌垢を擦り取るための舌垢の擦り取り具で、首部は可撓部を有し、頭部は略扇形状で先端に鋭利な擦り取り片とその内側に植毛部を形成するという技術手段を採用した。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の具体的な一実施例について図1～図3に基づいて詳細に説明する。図1は本発明の舌垢の擦り取り具の正面図、図2は側面図、図3は本発明の舌垢の擦り取り具の使用状態を示す概略正面図である。

【0007】図1～図3に示す本実施形態の舌垢の擦り取り具1は、把持部2に擦り取り片3とブリッスル6を設けた植毛部4を首部5を介して一体的に結合している。首部5は弾力性を持たせるために可撓部7が形成されている。

【0008】そして、その全体的な形状、サイズを示すと、把持部2の端縁である後端から擦り取り片3の端縁である先端までの舌垢の擦り取り具1の全長を140mm～170mm、好ましくは150mm～160mmに設定し、且つ植毛部4は2～3列植毛し、長さは、擦り

取り片3の高さより若干高くなる。

【0009】そして、把持部2は5本の指の形状に合わせた凹凸形状を形成して、握り易くし、しかも、丸みを帯びている。

【0010】そして、首部5は可撓性を有する材料を使用したり、肉薄と肉厚の部分を交互に形成して可撓性を持たせるようにしてある。舌垢の擦り取り具1としての擦り取り片3と植毛部4が首部5を介して形成されている。そして、擦り取り片3と植毛部4を有する舌垢の擦り取り具1の形状は扇状で先端の円弧部に肉薄の擦り取り片3を形成し、この円弧状の擦り取り片3に平行させるようにして植毛をした植毛部4が形成されている。

【0011】すなわち舌の奥から手前に引っ張る場合に舌の幅方向の略全幅と同幅の扇状の円弧部を形成し、この円弧部に薄刃状の擦り取り片3を形成し、さらに、内側に外側の円弧状部と平行に植毛した植毛部4を形成する。この擦り取り片3と植毛部4は舌面の垢を擦り取るようにスライドさせるもので、口臭の原因である垢、細菌を取り除くことができるものである。

【0012】本発明の舌垢の擦り取り具を構成する柄である把持部2及び植毛部4の基底部、擦り取り片3は軽く、かつ容易に変形や破壊を起こしにくい材質で形成されていることが好ましい。

【0013】かかる材質としては、例えばポリプロピレン、ポリエチレン、ポリスチレン、ポリカーボネート、ポリフェノール等が挙げられる。これらのうちポリプロピレンが好ましい。又、植毛の材質としては、例えば、ナイロン等の合成繊維、豚毛などの天然毛等があるが、ナイロン毛が好ましい。また、柄を製造する場合、上記ポリプロピレン等を例えば射出成形法、圧縮法等の常法により把持部2及び擦り取り片3、植毛部4の基底部を成形し、ナイロン毛などを植毛することにより、本発明の舌垢の擦り取り具を製造することができる。

【0014】

【発明の効果】本発明は、以上の構成に基づいて、舌の形状に最適な扇状の円弧部に擦り取り片と植毛部を形成することで安全に簡単に舌面の垢を除去することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の舌垢の擦り取り具を示す平面図である。

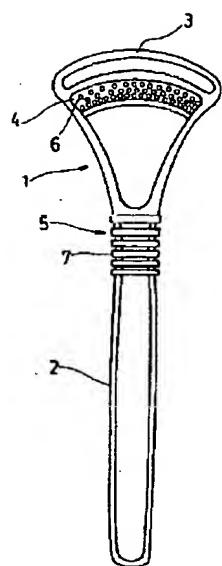
【図2】同側面図である。

【図3】本発明の舌垢の擦り取り具の使用状態を示す平面図である。

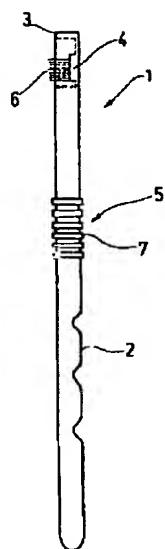
【符号の説明】

1……舌垢の擦り取り具	2……把持部
3……擦り取り片	4……植毛部
5……首部	6……ブリッスル
7……可撓部	

【図1】



【図2】



【図3】

